



Bank of Japan Fukushima Branch

## 福島県金融経済概況 (2022年8月分※)

### 【概況】

県内景気は、新型コロナウイルス感染症の影響が幾分強まっているものの、供給制約の影響が和らいでいることから、緩やかに持ち直している。

最終需要の動向をみると、個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響が幾分強まっているものの、基調としては持ち直しが続いている。住宅投資は、持ち直しの動きが鈍化している。設備投資は、増加している。公共投資は、下げ止まっている。

鉱工業生産は、半導体不足の影響が残るものの、海外における物流網の混乱による供給制約の影響が和らいでおり、持ち直しの動きがみられている。

雇用・所得環境は、新型コロナウイルス感染症の影響が残るものの、人員不足感の強まりから、緩やかに改善している。

先行きについては、新型コロナウイルス感染症や物価上昇による個人消費への影響、供給制約による生産面への影響、また雇用・所得の動向に注意していく必要がある。

※ 直近までに入手可能な金融経済統計およびヒアリング情報をもとに、県内の金融経済動向を取り纏め。

### 【前回からの基調の変化】

総括	個人消費	住宅投資	設備投資	公共投資	生産	雇用・所得
→	→	→	→	↑	↑	→

(注)

- ↑ : 前回から改善度合いが強まっている、もしくは悪化度合いが弱まっている。
- : 前回から変化なし。
- ↓ : 前回から改善度合いが弱まっている、もしくは悪化度合いが強まっている。

【本件に関する問い合わせ先】  
日本銀行 福島支店 総務課  
TEL:024-521-6353

本資料は、ホームページ  
(<https://www3.boj.or.jp/fukushima/>)  
にも掲載しています。



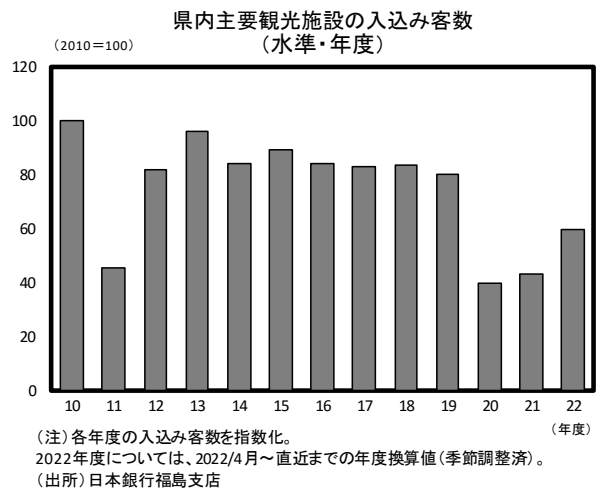
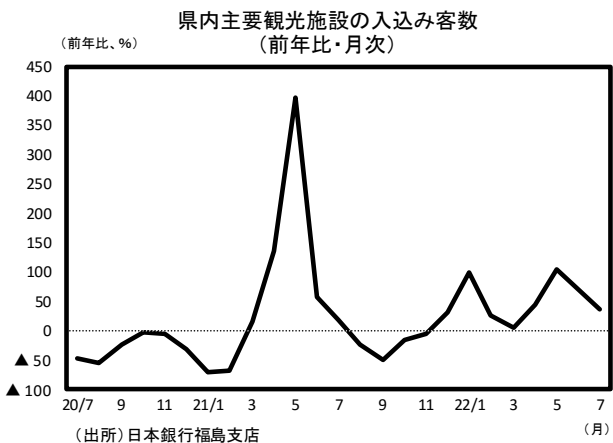
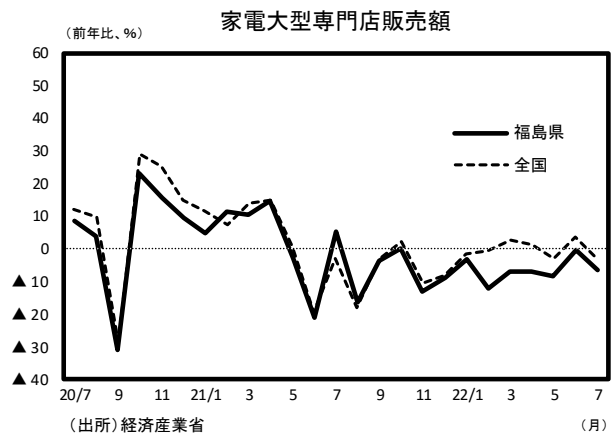
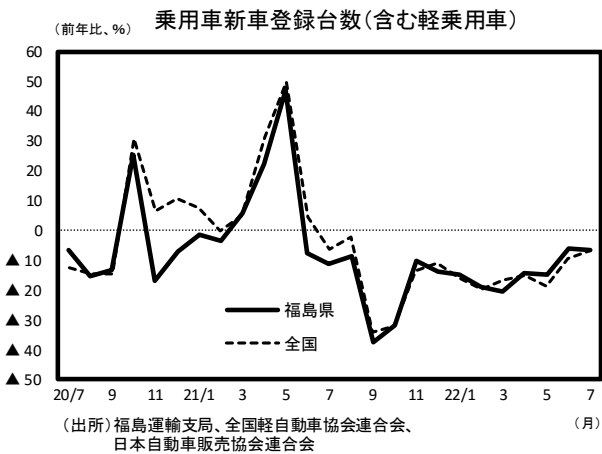
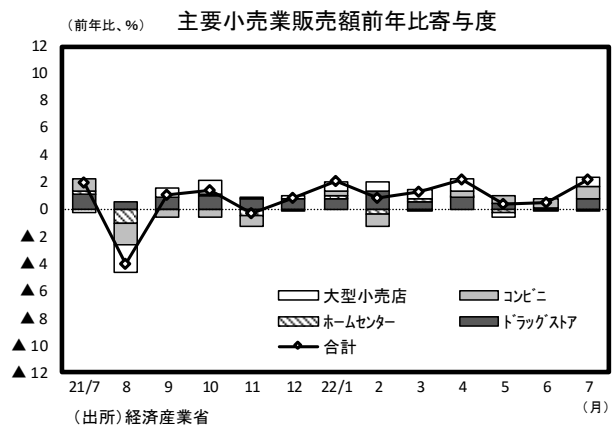
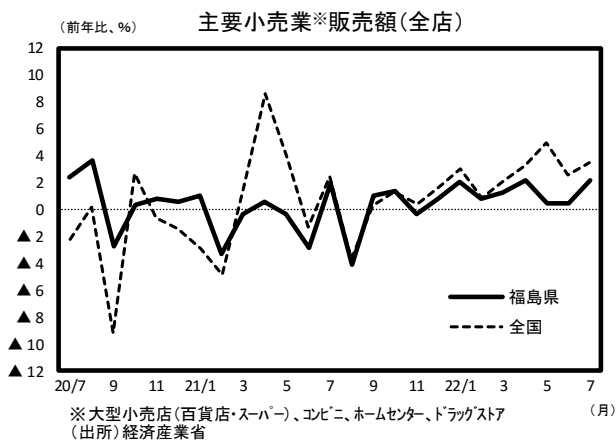
# 1. 需要項目別の動向

## 【個人消費】

個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響が幾分強まっているものの、基調としては持ち直しが続いている。

主要小売業販売額（7月）は、前年を上回った。乗用車新車登録台数（7月）、家電大型専門店販売額（7月）は、前年を下回った。この間、外食や旅行等のサービス消費は、新型コロナウイルス感染症の影響が幾分強まっているものの、基調としては持ち直しが続いている。

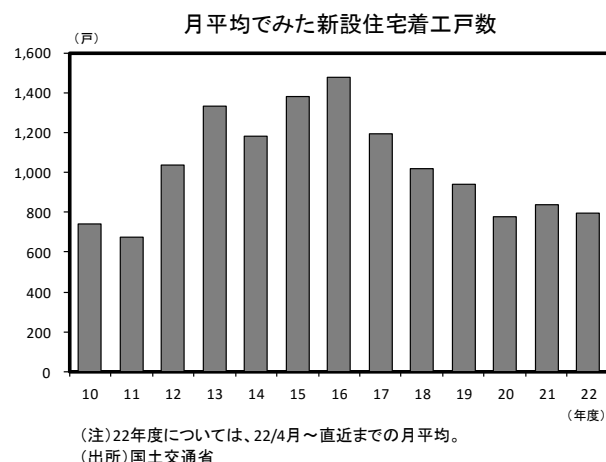
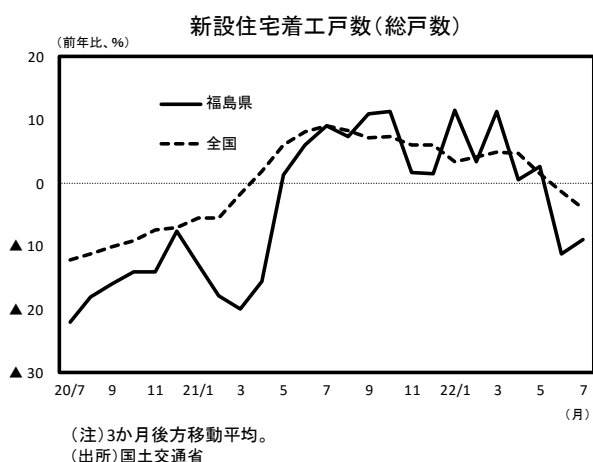
県内主要観光施設や宿泊施設への入込みは、自治体の経済対策の効果もあって、持ち直している。



## 【住宅投資】

住宅投資は、持ち直しの動きが鈍化している。

新設住宅着工戸数（7月＜3か月後方移動平均＞）は、前年を下回った。

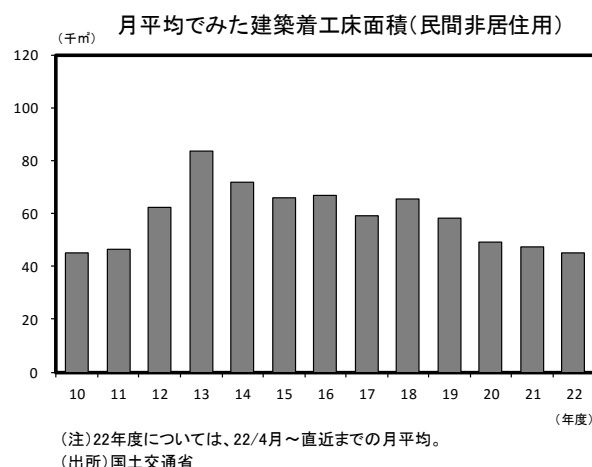
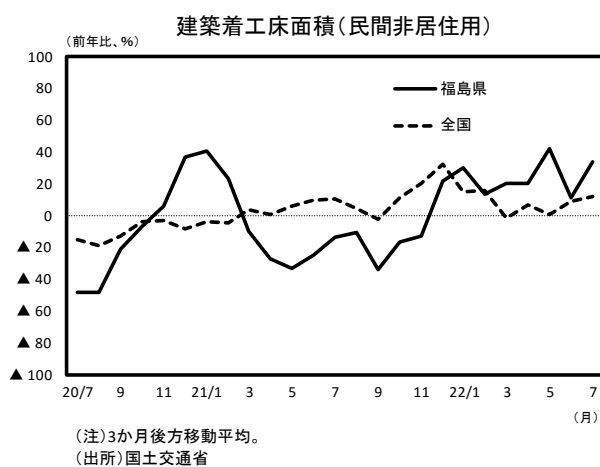


## 【設備投資】

設備投資は、増加している。

6月短観における県内企業の2022年度設備投資計画は、前年度を上回っている。製造業では、能力増強投資の増加から、前年度を上回っている。非製造業では、新規出店や店舗改装がみられている中、エネルギー価格の上昇を受けて投資を先送りする動きもあり、前年度をやや下回っている。

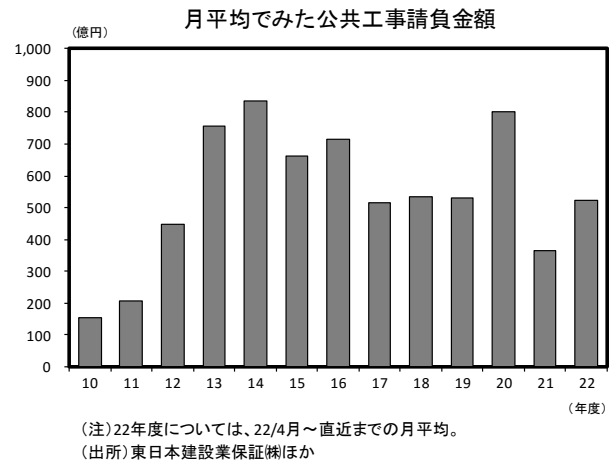
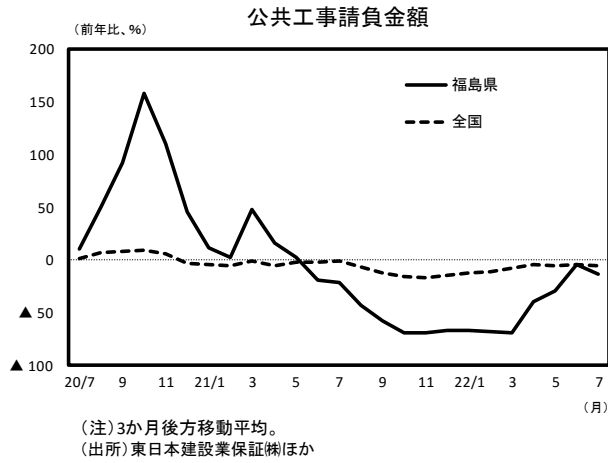
建築着工床面積（民間非居住用）（7月＜3か月後方移動平均＞）は、前年を上回った。



## 【公共投資】

公共投資は、下げ止まっている。

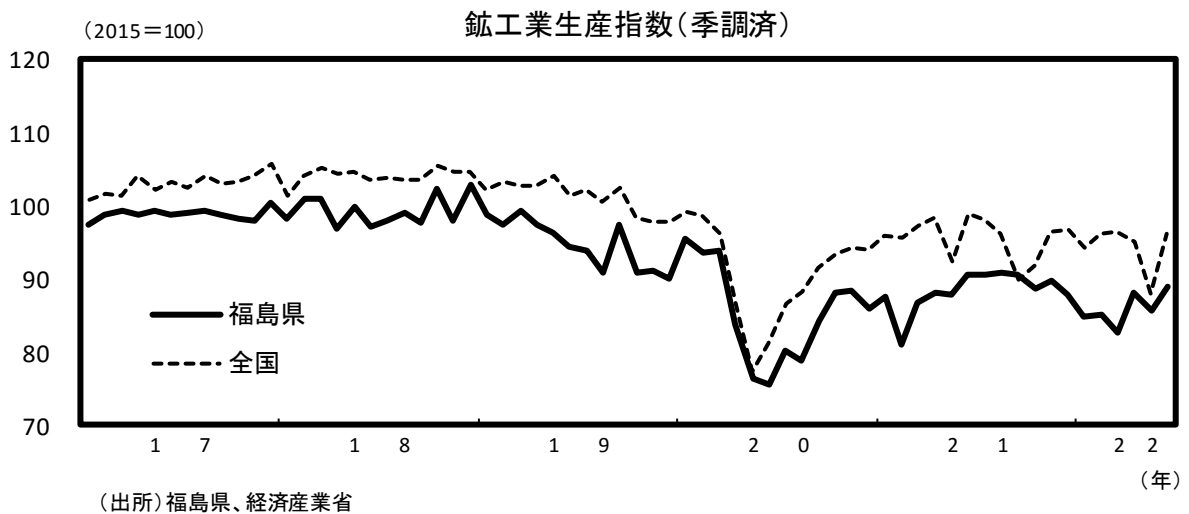
公共工事請負金額（7月＜3か月後方移動平均＞）は、前年を下回った。



## 2. 生産動向

鉱工業生産は、半導体不足の影響が残るものの、海外における物流網の混乱による供給制約の影響が和らいでおり、持ち直しの動きがみられている。

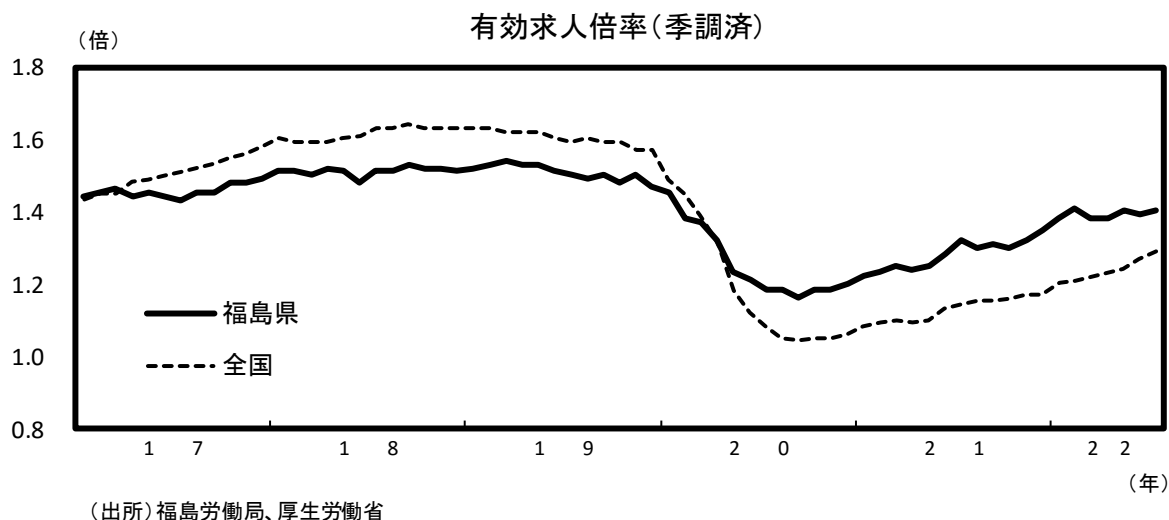
鉱工業生産指数（6月）を主な業種別にみると、汎用・生産用・業務用機械、輸送機械、化学は上昇した一方、情報通信機械、電子部品・デバイスは低下した。



### 3. 雇用・所得

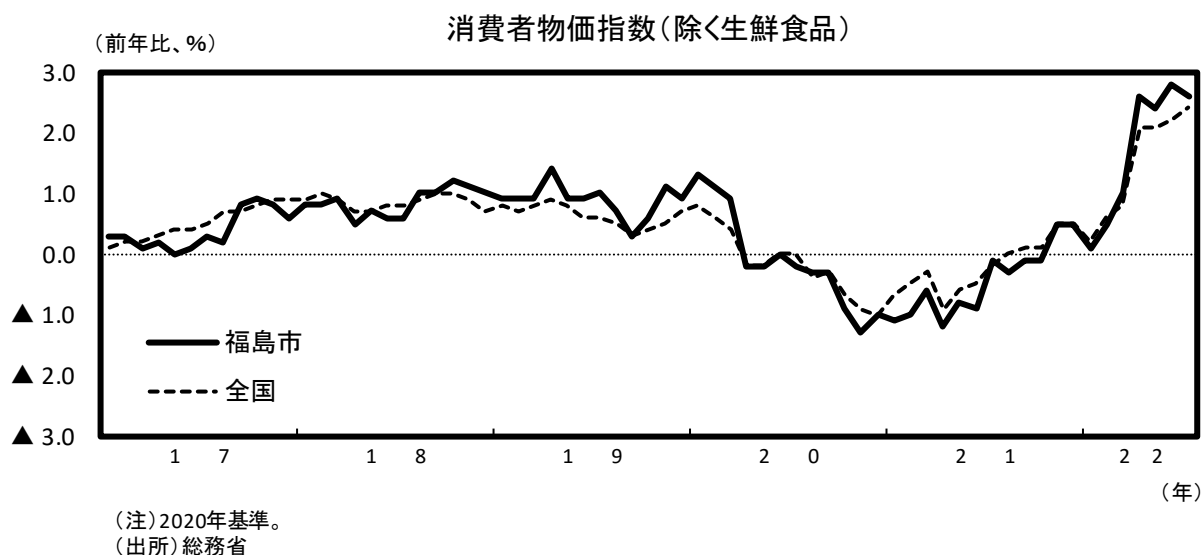
雇用・所得環境は、新型コロナウイルス感染症の影響が残るものの、人員不足感の強まりから、緩やかに改善している。

有効求人倍率（7月）は、上昇した。



### 4. 物価

消費者物価指数（除く生鮮食品）（7月）は、前年を上回った。



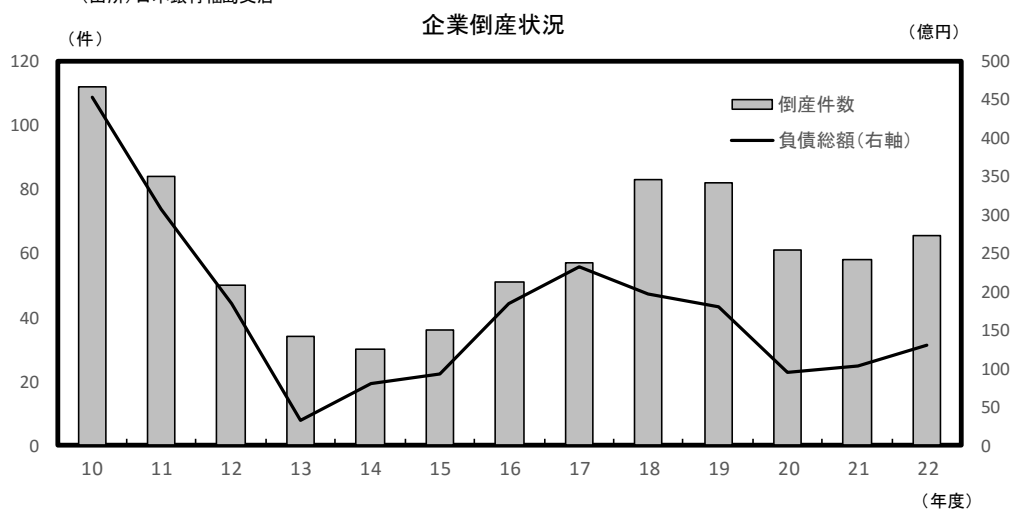
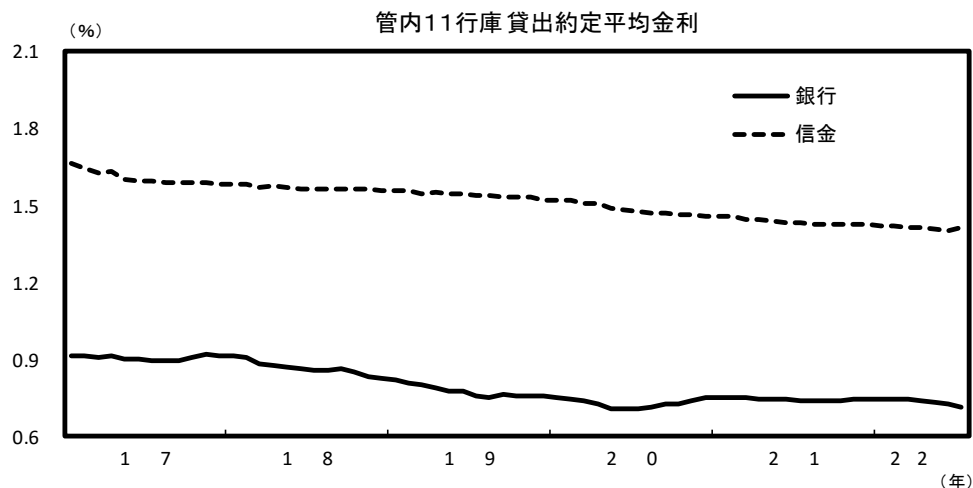
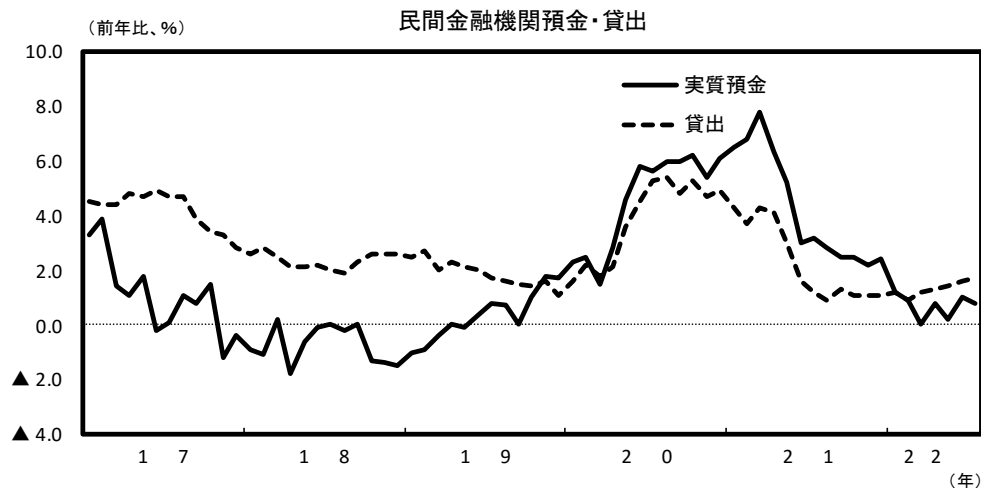
## 5. 金融情勢

実質預金は、前年を上回って推移している。

貸出は、前年を上回って推移している。

貸出約定平均金利は、既往ボトムの水準で推移している。

企業倒産は、落ち着いた動きとなっている。



以上